

日本の伝統・文化を継承する若者たち

明日への扉

Door to Tomorrow



Emi Omura

1982年静岡県生まれ。高校卒業後に伝統工芸士の篠宮康博氏に弟子入り。以後、師匠の下で研鑽を積むと同時に、静岡市内のカルチャースクールで竹細工の講師としても活躍している。



駿河竹千筋細工(するがたけせんすじい)

江戸初期、駿府(現静岡市)に移り住んだ徳川家康公が鷹狩りのえさ箱をつくらせたとの始まりとされる、経済産業大臣指定の「伝統的工芸品」。細工の特徴である丸ひごは、鳥や虫を傷つけないための配慮といわれている。

日本の伝統・文化を継承する若者たちを紹介する映像ドキュメンタリー「明日への扉」をぜひご覧ください。

MOVIE WebやTVなどでお楽しみいただけます。

Web版
パソコンやタブレットでもご覧になれます。本紙掲載以外に、多数の若者たちをご紹介します。

TV番組
ディスカバリーチャンネル(CS) 冠番組
「アットホーム presents 明日への扉」放映中
毎週金曜日 22:53~23:00

ビジョン
ANA国際線「SKY CHANNEL」にて放映中

NEW!! 最新号のご案内 好評公開中

No.069 / 弓浜緋職人 稲賀 さゆり 氏



駿河竹千筋細工職人 大村 恵美 氏

たけせんすじ

竹の優しさを、
手から手へと伝える。

名峰富士を望む静岡市。温暖な気候と豊かな水に恵まれ、良質な竹が生ずるこの地で生まれたのが駿河竹千筋細工。花器、菓子器、虫籠などで知られ、最近ではインテリアの灯りとしても注目されている伝統工芸だ。

「千筋」は竹ひごが畳の横幅に千本並ぶほど細いことに由来し、細工の特徴は、角が削られた丸ひごが使われること。丸ならではの優しく、柔らかい曲線が繊細な美を生み出す。

大村恵美さんは、伝統文化の継承を担う若き職人。高校卒業後にこの世界に入り、10年以上の歳月を費やしてきた。

きっかけは？

大村「幼いころから工作が好きで、高校に入ると伝統工芸に興味を湧いてきたんです。高2の時に駿河竹千筋細工を見て、『どうやったらこんなことができるの!』と衝撃を受けたんです」

駿河竹千筋細工は全ての作業を、一人の職人が行う。まずは、竹を選び1cm程の幅に割り、表皮を剥ぐ。繊維が密集した表皮の部分を使うことで、強くしなやかな竹ひごにするのだ。

続いて厚さを整え、その先に切り込みを入れて手でひねると、竹はバラバラになる。これは、竹の性質を知りつくした先人の知恵で、一度にたくさん竹ひごを作ることができる優れた技。

ばらし終わったそれらを、一つ一つ細い穴に数回通して角を落とすと丸ひごの出来上がり。その丸ひごを、高温に熱したコテに押し当てイメージした形に曲げていく。

そうして完成させた丸ひごを竹の輪に差し、仕上げていくのだが、その輪をつくる際に神経を使うのが、節の歪みの矯正。輪は底の部材に使うため、歪みをまっすぐに直さなければ据わりが悪くなり、見た目も良くない。丁寧に節の歪みを直し、継ぎ目の分からない

い輪をつくるのは、職人としての腕の見せ所だ。

今後の抱負は？

大村「暮らしの中で使われることを念頭に置き、使い手の立場にたつて竹と向き合うことはとても大切。そういった事も含めて、次の世代へ技術を伝えていける、そんな職人になりたいと思います」

作品を手にとってくれる人々のために、修業の道に終わりはない。彼女の手の温もりは、確実に人々に届き、きつと未来へと伝わることだろう。明日への扉を開け、また一歩、夢に近づけよう。

※2014年10月取材掲載内容は取材当時のものです。

MOVIE MORE!!
使い手への想いを込めて、竹と向き合う姿を動画でご紹介しています。ぜひご覧ください。